

ご挨拶

副理事長 木内 裕之

昨年、世界中を騒がせた新型コロナウイルス、感染拡大防止のための活動自粛、経済の低迷など多くの被害が出ています。町ゆく人々が言葉も交わせない、ハイタッチや握手もできない、また薄い板に阻まれた会話のやり取り、感染予防対策には必要不可欠ではあるが、どこか閉鎖的に見えてしまいます。今後、コロナ以外でも暗いニュースは出てくるかもしれません。

しかし、青年会議所は「明るい豊かな社会」を実現するため前を向いている団体です。その度に暗くなるのではなく、負けない気持ちを常に持ち、打開策を見つけていかなければなりません。固執した考えではなく、柔軟に見方を変えていけば、人も地域もより良い方向に向かう事ができます。

かつて、私は大先輩に「社会人とは、まちの問題を見つめ考え、問題解決の行動がとれる人間の事言う」と教わった時、本気でまちの事を見ていなかったと痛感しました。呉市は今、若者の流出や少子化による人口減少、超高齢化など多くの問題を抱えています。ただ問題を解決しようと思うと、どこから手を付けて良いのか悩んで、なかなか前に進むことができません。

例えば地域資源、これは一般的にはその地域の自然、歴史、文化の事を言うと思いますが、その地域資源のある呉のまちにも人が生活しているわけですから、見方さえ変えてしまえば、その若者流出や高齢化問題も実は大切な地域資源なのではないでしょうか。

その問題を地域資源と捉えポジティブに考える事により、この呉のまちはもっと活力あるまちへと進化し、市民がまちに愛着を持つことができると考えます。

時代・地域の先駆者であれ！

先駆者とは、「他の者より先駆け」または「開発・開拓する者」といった意味があります。時代・地域の先駆者になることが、我々に課せられた使命だと信じ、室長と委員長をしっかりとサポートし導いていけるよう邁進していく所存であります。